

スタートアップ5か年計画に関する提言 ～インパクトスタートアップ当事者の立場から～

・いま2040年に向けて世界的に成長分野とされるのが、社会課題をテクノロジーの力で解決するインパクト領域です。

インパクト領域とは、例えば「環境・エネルギー」「医療・福祉」「教育・子育て」「食・農業」など、持続的な社会の実現のために解決すべき社会課題が存在する分野を指します。

世界的には、環境・エネルギー問題を解決する「クライメート・テック」、高齢化に対応したサービスをデジタルやロボット技術の力で生み出す「エイジ・テック」などにおいて、高い成長を見せるスタートアップが次々と現れています。

○グローバルにおけるインパクトスタートアップの急速な成長 ※詳細は参考資料スライド

- ①現在ユニコーンとなっているインパクトスタートアップは世界で179社。そのうち40%は直近15か月以内にユニコーンとなった
- ②2022年1Qのインパクトスタートアップへの投資額は\$12.9B(約1.8兆円)で、2017年と比べると約3倍
- ③インパクトスタートアップの累積時価総額は2020年比では70%増
- ④欧米に比べ、アジアにおけるインパクトスタートアップへの投資額は未だ限られており、成長余地大

出典: Impact startups and venture capital - Q1 2022

<https://dealroom.co/uploaded/2022/04/Dealroom-Impact-Q1-2022.pdf>

○なぜ、インパクト領域のスタートアップは成長するのか？

それは、下記の「強み」があるからです。

- ※成長の余地が大きい 社会課題の複雑化とともに市場が拡大するため
- ※若い起業家の卵が多い 国内Z世代調査→社会課題を強く意識しているZ世代ほど起業を志す人が多い
- ※地方の雇用に役立つ 東京など大都市以外で起業しているスタートアップが多い

○一方で、インパクト領域のスタートアップには、他領域の成長に関する「特徴」もあります

- ※PMFに時間がかかる 通常なら3年程度とされるところ、10年程度かかることも少なくない
- ※事業のピボットがしにくい 目的が「社会課題の解決」であり、そこから外れると意味がなくなる
- ※投資家側の理解を得にくい 社会貢献＝「儲からない」という先入観がある

○例えばアメリカでは、この「強み」を活かして「特徴」に配慮したエコシステムが作られ、パタゴニア(登山・衣料品メーカー)やビヨンドミート(代替肉開発)、ワービーパーカー(エシカル眼鏡販売)など次々と有力なインパクトスタートアップが生まれ、上場を果たし、経済成功と社会課題の両立を果たしています。

アメリカ	日本
社会的事業の初期ステージに投融資できる、「忍耐強い資本(PATIENT CAPITAL)」を供給する財団があり、税制優遇措置などが存在する	インパクト投資ファンドの数は初期ステージからレイターステージ全てで少なく、また優遇制度が薄い
インパクトスタートアップを認証する制度がある(B Corp・ベネフィットコーポレーションなど)	認証制度は普及していない。独自にB Corpを取得する企業は出てきているが支援はない
認証企業スタートアップに対して、公共調達優遇や、人材を流す施策が存在する	認証などがいないため、自治体側もどのインパクトスタートアップと組めば良いかが分からない

【提言】

いま世界的に成長するインパクト領域。日本は、その分野において圧倒的な可能性を持っています。いわゆる「社会課題先進国」として、高齢化や地域の活性化など、解決すべき課題のフィールドを実際に持っているからです。

いまこそ課題先進国であることを「強み」と捉え「社会課題解決」と「経済成長」を対立構造ではなく未来をより良くするための「両輪」として、持続的に成長できる枠組みを作っていく。

それこそが岸田総理の掲げる「新しい資本主義」の姿なのではないでしょうか。

新しい資本主義におけるスタートアップ支援策において、いま世界的に急速な成長を遂げようとするインパクトスタートアップ向けの支援策として以下の3点を盛り込むよう、提言します。

1) インパクトスタートアップに対する、認証制度および国際認証取得支援

※インパクト目線のスタートアップ支援育成プログラム創設(J-Startupのインパクトスタートアップ版)

※B Corpブランチの東京誘致、スタートアップに対するB Corp取得支援

2) インパクト投資の優遇

※インパクトスタートアップへの投資に関して損金算入を可能にするなどの税制優遇

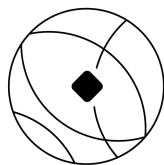
3) 休眠預金活用や寄付・ふるさと納税などを活用し、「忍耐強い資本」を生み出す

※休眠預金を出資貸付に活用できるようにし、シード期のインパクトスタートアップへの出資を拡大

※ふるさと納税の適用範囲拡張、富裕層のベンチャーフィランソロピーへの税制優遇など忍耐強い資本を増やす

4) 自治体ごとのニーズと認証企業のマッチング支援

※地域の社会課題解決を行える認証企業と自治体側の持つニーズとのマッチングを行うためのポータルサイトやカタログの作成



Impact
Startup
Association

インパクトスタートアップ協会

Purpose

インパクトスタートアップのエコシステムを構築し
持続可能な社会を実現する



Gojo & Company, Inc.

Strategy

共有	インパクトスタートアップが成長するために 欠かせない知識を共有しあいます	例 資金調達やインパクトの可視化に関する 会員同士の情報交換、勉強会の実施など
形成	インパクトスタートアップのエコシステムの 構築を目指し、関与者の拡大を促進します	例 投資家むけインパクト投資の 勉強会の実施など
提言	インパクトスタートアップの成長環境の構築を目指 し、政府・行政との協創の場を作ります	例 政策提言・関心を持つ議員へのレク・ 行政組織との共催セミナーの実施など
発信	インパクトスタートアップという存在を 発信し、プレイヤーの拡大を実現します	例 一般向けイベント・メディア交流会の 実施など

インパクトスタートアップ協会会員構成

発起人(設立時幹事社)



UniFa



Life is Tech!®



READYFOR

ヘルボニー

Gojo & Company, Inc.

正会員



WOTA



Fast DOCTOR



FERMENTATION
Co., Ltd.



インパクトスタートアップ協会会員の業種

環境・エネルギー

iINNOQUA

WOTA

Fast DOCTOR

Blanket

UniFa

自然電力

T B M

aba

CureApp

Life is Tech!

Pirika

**FERMENTATION
Co.,Ltd.**

ヘラルボニー

sozow

食・農業

株式会社
坂ノ途中

AGRIST

TeaRoom

食べチョク
T A B E C H O K U

金融包摂

Gojo & Company, Inc.

READYFOR

その他

yel
人的資本

ALE Co., Ltd.
人工衛星

COTEN
世界史データベース